

『小中学校の連携を通し、豊かな心をはぐくむ道徳教育の推進』 －他教科・特活との関わりを重視した、道徳の時間の指導の工夫－

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

- (1) 児童の実態把握（アンケート調査）、職員アンケートから目指す児童像を策定
- (2) 研究授業による検証（一人一実践）
- (3) 理論研究（「総合单元的な道徳」について）
- (4) 学級経営的な視点による、日常的継続的な指導
- (5) 「小中連携ふるさとやまなし道徳教育推進事業」の取り組みにそって実践活動を展開

2 研究実践

(1) 理論研究

『総合单元的な道徳の授業』についての学習会

（義務教育課 指導主事 菘原 桂 先生）

（峡東教育事務所 主幹指導主事 一之宮英文 先生）

(2) 実態調査の実施

ア 職員アンケートから目指す児童像をつかむ

イ 7月 道徳性アンケート調査実施 課題と手だての確認

ウ 1月 道徳性アンケート調査実施 7月と昨年度との変容を見る

- (5) 授業実践 塩山北中学区のめざす子ども像の実現のため、4校で重点項目を決定した。昨年度までの道徳の時間の指導の工夫とともに、今年度は他教科・特活や学校行事との関連を考えた総合单元的な道徳に取り組み、全学年が研究授業を実施した。

(6) 家庭・地域と連携した取り組み

・花いっぱい運動・・・学校だけでなく、各家庭に花の種を配布し家庭でも取りくんでもらった。

・命の標語・・・全児童・保護者から命の大切さに関する標語を募集した。塩山北中学区4校の作品と一緒に、地域の文化祭で掲示した。

・アルミ缶・エコキャップの回収・・・児童会が中心となって回収していたが、塩山北中からの呼びかけに応じ、4校で連携して取り組んだ。

II 成果と課題

1 成果

- 総合单元的な道徳についての考え方について学び、共通理解が図れた。
- 指導案に総合单元的な扱い(位置づけ)をした道徳を示すことができた。

- 研究授業を全員が行ったことで、全学年を見通した発達段階を知ることができ、これからの参考になった。
- 授業を公開することで、指導の工夫や資料提示の仕方を学ぶことができた。
- 授業の時期やゲストティーチャーを含む題材の選定、心のノートの活用などを考えた実践ができた。
- 道徳の時間(授業)の工夫が見られた。それにより学習効果を高めることができた。
- 各学年の年間指導計画が作成できた。
- 学校行事との関連を示す内容項目の関連表が作れた。
- 昨年度の実践が今年度に生かされ、レベルアップした研究になった。
- ざぜん草公園の清掃、アルミ缶集めなどの活動が道徳授業に関連付けられ意識的に取り組めた。
- 塩山北中学区の4校がお互いに交流し、授業を見合い、一歩進んだ研究になった。

2 課題

- 道徳の時間と教科・特活等、実践場面とのかかわりについてもっと意識する必要がある。
- 重点項目についてだいたい深められた。さらに教材開発(発掘)を進めていく必要がある。
- 道徳的意欲や関心を高める校内掲示等の工夫をする。
- 小中連携について4月から(特に1学期間に集中して)取り組む必要がある。
 - ①アルミ缶回収活動を地域に宣伝・アピールしながら活発に行う。
 - ②小中の生徒会と児童会合同のあいさつ運動を北中生徒会中心で行う。
- 4校が連携して道徳的な活動をしているのだという子ども達への意識づけを図る。
- 地域と小中間の“連携”を、見える・わかる形で強めていく具体的な活動や運動が必要である。
- 実践部分で保護者や地域の方を交えて、道徳性を育てるような取り組みを行う。

III 成果物

1 道徳学習指導案名

- ア 第1学年 主題名 家族のためにできること 2-(2) 思いやり・親切, 4-(2) 家族愛
資料名「いいおばけ」(日本標準) 竹川 由美子
- イ 第2学年 主題名 たいせつないのち 3-(2) 生命尊重
資料名「生まれてきてくれてありがとう」(紙芝居) 新海 小緒里
- ウ 第3学年 主題名 相手の気持ちを考えて 2-(2) 思いやり・親切
資料名「みんなで遊ぶ日」(自作資料) 三森 敏彦
- エ 第4学年 主題名 人の気持ちを考える 2-(2) 思いやり・親切
資料名「温かいことば」(学研) 山元 和香子
- オ 第5・6学年 主題名 思いやりの気持ちを持ち親切に 2-(2) 思いやり・親切
資料名「車いすの経験から」(東京書籍) 中村 伸也
- カ 第6学年 主題名 ふるさと・玉宮 4-(7) 郷土愛
「ゲストティーチャー澤登秀信さんの歌とお話」 中村 裕司

2 道徳性アンケート・職員アンケート 結果及び考察

(研究主任 新海 小緒里)